会報名「ふれあい」のおもい：心のふれあいによって相手を理解し、思いやりの心が生まれ、新しい美浜をつくっていく。

人権協シンボルマーク

いろんな人と人とのつながり、ふれあいを 美浜のMと波でイメージしました。

ふれあい

美浜町人権尊重啓発協議会会報

第79号

発　行：令和5年2月22日
（年3回発行）
編　集：人権協広報部会

連絡先：美浜町教育委員会事務局
TEL 32－1212
FAX 32－1222
https://mihama-jinkenkyo.jp/
↑こちらからどうぞ

人権協HPができました！

人権のつどい2022

12/10 sat.

12月10日に、人権のつどい2022が生涯学習センターなびあすで開催されました。今年のつどいでは、義足のプロダンサー・大前光市さんと、エレクトーンプレイヤー・826askaさんによるパフォーマンス＆トークライブが行われました。

第1部では、大前光市さんによるダンスパフォーマンスとトークライブを開催。大前さんは、2016年リオ・パラリンピック閉会式のソロ出演や、第64回紅白歌合戦での平井堅との共演、テレビ・ラジオ・CMの出演等、国内外の様々な舞台で活躍されています。

大前さんは、24歳の時に交通事故に遭い左足を切断。事故に遭った時が、バレエ団への入団最終オーディションの2日前だったため、「なんで俺が―！」と叫んだそうです。父親に励まされ事故後もダンスを続けますが、オーディションに受かることができず、足を失う前に戻りたいという葛藤の日々が続きました。しかし、ダンス仲間との練習時に義足を外して踊ったところ、その動きが魅力的と言われ、人はそれぞれが違い、バク転等をしなくても自分の表現を伝えることができると気付いたそうです。

ダンスパフォーマンスは全5曲を披露。1曲ごとに衣装や義足を変え、日本舞踊の要素を取り入れたダンスや、足を失った苦しみや葛藤を全身で表現するダンス、光る義足を装着してのダンス等で会場を魅了しました。「変化は進化。多様性とは一人ひとりが違うことであり、地球の人口ほどあるはず。一人ひとりの生き方が違うのが当たり前ということを、ダンスで表現し伝えていきたい」と強く語られました。

第2部では、826askaさんによるエレクトーンミニコンサートを開催。askaさんは8歳からエレクトーンの演奏を始め、2016年（中学2年生）に動画投稿サイト「YouTube」にアップした「STAR WARS」の演奏が海外メディアで取り上げられ人気が急上昇。現在「YouTube」動画の総再生回数は2億回を突破、チャンネル登録者は73万人以上の鯖江市在住のアーティストです。

コンサートでは、ゲームやアニメ音楽、マツケンサンバ、クラシック等の全6曲を演奏。エレクトーンから奏でられる迫力ある音色で会場を虜にしました。SNSでの誹謗・中傷が当たり前になっている時代で、自身もそれに悩まされた時期もあったと語るaskaさん。「一人ひとりが相手の気持ちを考え、相手を思いやれるようになったらいいな」と笑顔で語り演奏する姿は、愛に包まれたような温かいステージでした。

ダンスはどうやってどこを楽しむつもりで見たらいいかと、会場に来る前はいろいろ考えていましたが、トークをお聞きし、ダンスを見てそのまま感動できました。

エレクトーンすごい、一人オーケストラだ。自由にいろいろな楽器を操られて楽しい楽器ですね。心ポカポカ、静と動のステージとても楽しめました。

とてもすばらしいステージでした。大前さんのパフォーマンス、ビシビシ心の琴線に触れて涙が出ました。一つ一つの言葉にもグッとくるものが多かったです。826askaさんの明るいキャラと、圧倒的な演奏がただただ感動しました。

コロナなどで仕事も低迷してしまい、やる気がなくなったり、年齢を重ねて体力も落ちてきたことからすごく自信もなくしていました。でも大前さんの「変化は進化」という言葉、askaさんの演奏を聴いて元気が出ました。

第5回町民人権講座

悩む力　［講師］姜（かん）　尚中（さんじゅん）さん

10月19日、姜尚中さんをお迎えして、第5回町民人権講座が開催されました。コメンテーターとしてテレビでも活躍されている方ということで、多くの方が来場し、会場はほぼ満員の状態でした。政治学者としての広い知見をもとに、さまざまな視点から人権の問題についてお話ししていただきました。未だ残る男女差別や障がいを持つ人への偏見等、世の中には課題がたくさんあるが、その問題の一面だけを切り取って見るだけではいけない、多面的・多角的な視点で複雑な問題を考えていくことが大事である、ということを教えていただきました。

人間とは…差別とは…と深く掘り下げてご講演下さったなと思います。これまで何気に捉えていたことをあらゆる視点から教えてくださり理解できました。一人では弱いけれど、つながりを持つと人間は強いということ、また議論することが増していかなくてはならないと思いました。

姜尚中さんの出演するテレビ番組はよく見ています。穏やかな口調、鋭い視点で社会情勢を分析され、今回実際に講演をお聞きする機会を得てうれしく思います。私が考えていた通りの人でした。人間が進化しているのか退化しているのか？　複雑な部分を単純化しようとしている。著書を読ませていただきます。

今まで白黒に振り分けて、知らないうちに差別化していたことに気付かされた。一人は弱い、地域社会とつながっていきたいと思う。

第6回町民人権講座

石井眞澄・千晶さん 講演会

部落問題と向き合う私たち
～結婚差別を乗り越えて～

11/17 thu.

被差別部落出身の石井千晶さんと学生時代に部落出身を理由に彼女との交際を両親に反対された経験を持つ石井眞澄さんご夫妻を講師にお招きし、第6回町民人権講座が開催されました。

千晶さんが中学生の夏休み、友達の母親が、「何であの地域の子と友達になったの。用事ができたと言って帰ってもらいなさい。」と言うのが聞こえた。その帰り道、自分は悪いことしてないのに、なぜ帰らなくてはいけないのか考えたそうです。しかし、その後その子から「あの時は私も人権学習を受けていなかったから何も親に言い返せなかった。だからああいう対応になってごめん。」と謝罪されました。友達は葛藤の末、この別れ方は違うと考えてくれて、再び友情を信じるようになりました。

眞澄さんは大学生の時、両親から被差別部落出身の女性との交際を強く反対されました。住む地域だけで反対されることがとても悔しく、また人として教育を施してくれた両親が、理不尽な差別をしたことを悔しく思ったそうです。

そんな二人が結婚できたのは眞澄さんの両親が変わったから。眞澄さんが前の彼女と両親の間で悩んでいた様子を見て、両親も部落差別について学習し、心を入れ替えていきました。講演の最後に、千晶さんが紹介してくれた眞澄さんの父親からの手紙。そこには「差別という迷いから目覚め、今では二人の活動を誇りに思っている」と書かれていました。

今回の講演を聞いて自身の結婚と置き換えたときに、今でもこうした差別が残っていることにとても歯がゆい気持ちになりました。石井さんのご両親のように理解してくれる方が増え、幸せな結婚ができる夫婦が増えていくことを切に願っています。

自分の生まれた住所を堂々と言えないその気持ちの裏には、たくさんの苦い経験があるんだと胸が苦しくなりました。石井さんのご主人は言葉を選んでいらっしゃった。歯切れの悪いようで、実は奥様の気持ちを大切にしていらっしゃるんだなと感じました。

一緒に世間話に加わっているかのようなわかりやすい話でした。「みんなが幸せになる」とても印象に残りました。

無関心ではいけない問題だとわかりました。みんなで勉強していかなければならない。二人の一生懸命に話される姿に感動しました。

差別は無知から再生産されます。いまだに部落差別が存在するということは、学校教育、社会教育、生涯教育が十分ではないからだと思います。人間関係が希薄になってきている今こそ、人権教育を基盤とした人間教育が必要だと感じました。

つながる ハートつるつる

今年も人権週間にあわせて、人権共同作品コーナーを設けました。

今年は、人と人とのつながりや平和への思いを皆さんで共有するために、ハート型の針金に折り鶴をつなげて、ハートをいっぱいにしていく取り組みを行いました。

人権週間が終わった後もなびあすに展示してありますので、皆さんの思いが詰まったかわいい作品をぜひご覧ください。

心が伝わる多くの人権作品に感動

「ふれあい」をテーマとした人権作品を募集したところ、児童生徒の皆さんをはじめ多くの方にご応募いただきありがとうございました。

今回は、どの部門においても対象や場面が多様で、それらを介して自分のことを見つめ直す作品が多く見受けられました。また、いろんな人に支えられて生きていることへの感謝を表す作品も多く、心情を言葉や作品で伝える機会の必要性についても実感しました。

人権コラム

夢と目標、そして感謝。

［執筆］田辺 憲虎（けんご）

夢や目標は、その日その日を支配し、より良いものにしてくれます。輝かせてくれます。

私には、プロ野球選手という夢と、甲子園でプレーするという目標がありました。理想は甲子園に出場し、活躍してそのままプロ野球の世界に飛び込むというのが一番でした。しかし、現実はそう簡単なものではありません。挫折を味わいました。周りと比べることが多くなっていきました。

そんな中でずっと信じていたのは、やはり自分であり、夢や目標という存在でもありました。夢や目標は逃げません。ただひたすらと練習を積み重ね、自分自身を成長させ、高みへと押し上げるしかありません。そんな日々は辛く、先が見えない不安もありますが、それと同時に自分自身に期待し、少しワクワクしていたのを思い出します。

夢や目標が明確な人は強いです。スポットライトの当たらない暗いところで、小さな目標を立て、一つ一つ確実に階段を上る、そんな小さな積み重ねが大きな夢を叶える唯一の方法です。夢や目標が叶わなかった、達成できなかったとしても、努力し続けたことは、自分自身を作り上げ、自信となり、やがて武器となります。マイナスなことは何一つありません。私のプロ野球選手になるという夢は叶いませんでした。甲子園に出場するという目標は叶いましたが、自分自身がプレーすることはできませんでした。でも後悔は一つもありません。やり切ったという達成感でいっぱいです。

私の人生において、この高校三年間があったからこそ自分がやりたいと思う、実業団までプレーができました。そして何よりも今の自分があります。自分を高めてくれて、成長させてくれた夢や目標、そして野球には感謝しかありません。また、私が思う存分、野球ができる環境を作ってくれて、背中を押してくれた両親や家族には心から「ありがとう」と言いたいです。

こえ　声　こえ

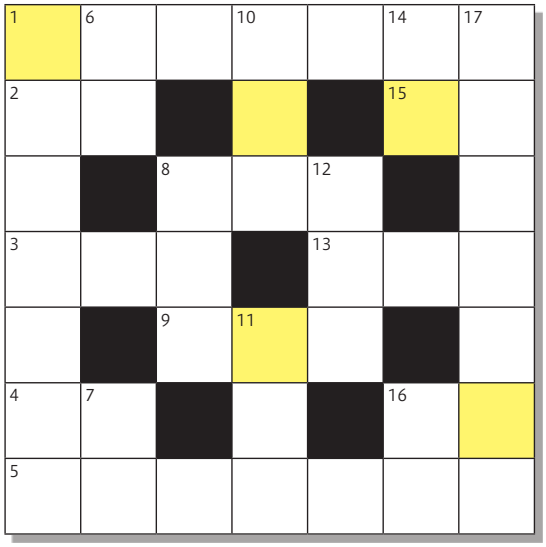
「ふれあい」第78号をお読みになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介します。
これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

◆「ふれあい」はいつも読んでいます。今回の人権コラムでは「時間と感謝」、大切だなあと改めて思いました。（S. Mさん）

◆美浜の方から見せてもらいました。クロスワードパズルは頭の体操になりました。（M. Iさん）

◆今まで人権協の活動に関心が低かったのですが、高齢になり皆様にお世話になることが多くなり、少し優しくなってきたのでしょうか。人権講座を聴こうという気が強くなってきました。“ふれあい”を読んでもパズルを解いて応募しようと思わなかったのですが、今回初めて応募する気になりました。（T. Tさん）

◆第3回の講座に参加させていただきました。映画の中で描かれていたことは、現実にも起こっていることだと改めて認識させられました。（S. Nさん）



応募方法

（郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします）

●答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 人権協事務局（生涯学習センターなびあす内）
※FAX（0770-32-1222）
E-mail（jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp）

感想やご意見もお願いします。

●〆切は、**令和5年4月28日（金）**です。（当日消印有効）
●正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
●前号の人権クロスワードの正解は**「きらめく」**でした。
たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は19名でした。

今回の当選者は **中村 新一**さん　**坊　栄子**さん
仲嶌 富士男さん　**宇都宮 靖**さん　**馬野 豊子**さん
以上の皆さんです。おめでとうございます！

人権クロスワードパズル

黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。

○○○○○

ヨコのカギ

1. 英語ではシーホースと呼ばれる海水魚。
2. 海にすむ生き物。「アカ○○」「ミミ○○」「ヤリ○○」などの種類がいます。
3. 乗り物を使って物を運ぶこと。
4. 僧侶が着る衣服。
5. 「3cm」「お椀」「打出の小槌」から連想される昔話は？
8. 一定の位置に止まって動かないようにすること。
9. 十干の7番目。「庚」と書きます。
13. 国土の大部分がサハラ砂漠の一部であるアフリカ北部の国。首都はトリポリ。
15. 草を刈るために使用する道具。
16. 昨年の干支は？

タテのカギ

1. 年末年始に食べたり飲んだりすることが多いと、これに乗るのが怖くなります。
6. 刀剣などの手で握る部分のこと。
7. 日本での1000円、5000円、10000円はこれ。
8. 日本での1円、5円、10円、50円、100円、500円はこれ。
10. 裏の裏のこと。
11. 「教」や「数」の部首。「ぼくづくり」とも言う。
12. 海や湖が陸地に入り込んだところのこと。
14. 4つに分かれた胃を持つ哺乳類ですが、ウシではありません。
16. 西暦618年～907年の中国の王朝。
17. 漢字で書くと「胡麻班海豹」と書く哺乳類。水族館や動物園で見ることができます。

編集後記

◆年間3号発行しているこの広報紙。今年度も最終号となりました。コロナ禍は明けませんが、行動制限は良くも悪くも解除されていく方向へ舵を切っています。ウィズコロナがまだしばらく続きそうです。本号が読まれる頃には第8波とインフルエンザは治まっているでしょうか。◆スーパーなどのレジ待ちでは、どこのレーンが早いかを見極めることがよくあります。オランダのスーパーでは、「チャットレーン」（このレーンでは、担当者が顧客と日常会話を交わしながらゆっくりと会計してくれる）の設置を進めているそうです。高齢者を中心に評判は上々のようで、日常のたわいもない会話をすることで孤独感を癒やし、つながりが持てることの喜びを味わえているそうです。そう言えば私の幼い頃も、「おばちゃんアイスちょうだい。」「あんたさっき食べたとこやん。もうやめときな。」と心配してくれた店のおばちゃんがいました。こんな会話は今ではほとんどありませんね。◆コロナ禍でレジ職員との接触を避けるためのセルフレジをよく見かけるようになりました。レジに限らず、利便性ばかりを求める中で、失われていくものがたくさんあるような気がしてなりません。その失われていくものの中には人権に関わることもずいぶんたくさんあるのではないでしょうか。この広報紙の題名は「ふれあい」です。人権協では、これからもずっと、このふれあいを大切にしていきます。◆では、「明日天気になあれ」と願いながら、今年度終わりの編集後記とさせていただきます。いつもお読みいただきありがとうございます。次年度も一人でも多くの方に手に取っていただけますように…。【広報部会員一同】